

No.2
2026 夏号

TAKE FREE

米子歴史通信

特集！

2 - 3

国史跡上淀廃寺跡の 保全と活用

上淀白鳳の丘展示館

国史跡上淀廃寺跡に彼岸花の

球根を植え始めて今年で

13年目を迎えました。

今年の植栽でついに

5万球の球根を植える

ことができました。

米子錦ライオンズクラブ助成事業

4 郷土の歴史教室

米子市立山陰歴史館

企画展

5 鏡が映した歴史

米子市福市考古資料館

資料紹介

6 吹野俊英戦争資料の紹介

コラム

7 米子の考古学史

8 表紙の文化財・編集後記



上淀白鳳の丘展示館 国史跡上淀廃寺跡の保全と活用



—国史跡上淀廃寺跡 指定から30年の保全と活用—

かみよどはいじあと
上淀廃寺跡から平成3年(1991)4月に日本最古級とさ
さんとういちこんどう がらん はいち
れる彩色仏教壁画片が見つかり、三塔一金堂の伽藍配置
をもつ飛鳥時代後期創建の古代寺院であることが確認さ
れました。金堂、中塔、南塔の基壇きだん周辺の焼土層から見つ
かった熱を受けた瓦、焼き固まった壁体、塑像、土器などか
ら10世紀後半から11世紀ごろに炎上して廃絶したと考え
られています。平成8年(1996)に国史跡に指定され、今年
で30年を迎えます。



—彼岸花の植栽が広げるボランティアの輪!—

上淀廃寺跡のある米子市淀江町福岡は、国史跡向山古墳群や近隣に国史跡妻木晩田遺跡などがある古代遺跡の宝庫です。そこで、上淀廃寺跡を中心としたエリアの魅力を高めたいという思いから、田んぼの畔に咲く彼岸花から発想を得て、「彼岸花と史跡を結びつけた活動をやってみよう!」という「彼岸花の里づくりプロジェクト(平成26年発足)」が誕生しました。プロジェクトでは、上淀廃寺跡のりめんの法面の保全と遺跡の活用を図る目的で、毎年6月の第1土曜日に彼岸花の球根を上淀廃寺跡に植えつけています。その活動も今年で13回を迎え、植えつけた球根は5万球を超えました。その作業には地元の高校生、中学生、小学生も加わり、年々ボランティアの輪が広がっています。

上淀廃寺跡 壁画発見 35 周年・国史跡指定 30 周年

企画展

まるごと！上淀廃寺跡

会期 2026.9.19 [土] - 11.22 [日]

上淀白鳳の丘展示館 常設展観覧料が必要

本年は壁画の発見から35周年、国史跡指定30年を迎えることから、国史跡上淀廃寺跡についてまるごと！紹介します。



◀ 単弁 12 弁蓮華文軒丸瓦 飛鳥時代後期 上淀廃寺跡

上淀廃寺跡の創建瓦と考えられています。
上淀廃寺式軒丸瓦とよばれ、山陰地方の
広い範囲で見られる紋様をしています。

単弁 8 弁蓮華文軒丸瓦▶
奈良時代中期 上淀廃寺跡

上淀廃寺跡の改修瓦と考えられてい
ます。伯耆国分寺跡から同じ紋様の軒丸
瓦が出土しています。



第 7 回

彼岸花の俳句・フォト俳句コンテスト



令和
7年度
入選
作品
上淀の
石馬
渡る
秋の
風
和田稔

季題 上淀の秋

上淀廃寺に咲く彼岸花や天神垣神社と八朔まつり、
石馬やサイノカミ、むきばんだ史跡公園や岩屋古墳、
天の真名井、コスモスや稲の収穫風景など、淀江平
野周辺で見られる秋の風物詩を詠みこんだ俳句とフォ
ト俳句を募集します。作品は選考後展示します。

募集期間 2026.9.19 [土] - 10.17 [土]

応募料 300 円 (1 句)

応募先 上淀白鳳の丘展示館
問合せ先

〒689-3411

鳥取県米子市淀江町福岡 977-2

TEL 0859-56-2271

第 5 回

上淀廃寺彼岸花ウィーク

— 空の青と彼岸花の朱がおりなす上淀廃寺へのお誘い —

今年の「上淀廃寺彼岸花ウィーク」は、9 月 23 日
(水・祝) から 10 月 4 日 (日) までで、期間中の 26
日 (土)・27 日 (日) には《電動カーによる展示館－
廃寺間の送迎》、《上淀白鳳の丘展示館内の見学－石
馬の解説－廃寺の彼岸花見学の周遊を楽しめる廃寺★
石馬探検 BINGO》、廃寺跡では参加者が楽しめる《
モノづくり体験》などのイベントを開催します。

期 間 2026.9.23 [水・祝] - 10.4 [日]

会 場 国史跡上淀廃寺跡





写真：令和7年度郷土の歴史教室実施風景（左：旧海軍美保航空隊飛行機用掩体前、右：米子市美術館展示室）

米子市立山陰歴史館 米子錦ライオンズクラブ助成事業「郷土の歴史教室」

「郷土の歴史教室」は、昭和49年(1974)に米子錦ライオンズクラブ認証10周年記念事業として、子どもたちの郷土の認識と愛情を育み、また郷土の発展の一助とするため始まった事業で、今年で53回目を迎えます。米子錦ライオンズクラブの助成を得て、小学生を対象に毎年夏休みに開催しています。米子城や城下町の歴史をはじめ、大山の歴史、米子の鉄道の歴史など、毎年設定したテーマゆかりの歴史スポットを訪問して郷土の歴史を学んできました。数年前の新型コロナウイルス流行禍においては、当事業はじまって以来の中止の危機もありましたが、参加者同士が接触しないようにクイズラリー形式をとるなど、柔軟な対応で継続してきました。

掲載写真は昨年の郷土の歴史教室の様子です。アジア・太平洋戦争の終結から80年の節目に、米子の戦争の歴史について学びました。米子市立山陰歴史館、米子市美術館、米子市埋蔵文化財センターが連携開催した企画展「戦後80年 未来へ伝える昭和の戦争」(会場：米子市美術館)を解説を受けて観覧した後、^{あわしま}栗嶋神社(米子市彦名町)の忠魂碑、^{みほ}旧海軍美保航空隊飛行機用掩体 ^{えんたい}〔米子市指定史跡〕(米子市大篠津町)、^{おおしのづ}旧海軍航空隊美保基地跡(航空自衛隊美保基地)を見学しました。米子周辺の戦争被害の悲惨さや当時の人々の過酷な暮らしを知る機会となり、平和について考えるきっかけとなりました。これからも、米子錦ライオンズクラブと共に、子どもたちにとって、地域の歴史の魅力を発見できる良い機会となるよう努めていきます。

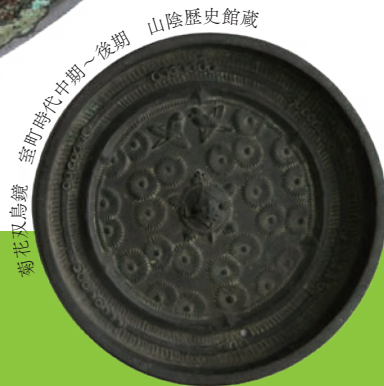
第53回「郷土の歴史教室」協力金贈呈

7月7日、米子市役所にて、米子錦ライオンズクラブの賀本正貴会長から、今夏の第53回「郷土の歴史教室」開催にあたり、協力金を贈呈いただきました。また、贈呈式の後、米子錦ライオンズクラブの長年のご協力に感謝し、伊木市長から感謝状が贈られました。今年の郷土の歴史教室は8月21日に開催。米子の上水道通水100周年を記念し、水と人との関わりを学ぶために、小学4～6年生約30名が水に関わる歴史スポットを巡ります。訪問先は、「米子市上下水道局」や同敷地内にある「水道記念館」(米子市車尾)、国の名水百選に選ばれた「^{くずも}天の真名井」(米子市淀江町)などです。今夏の歴史教室を通して、水道が今のように何気なく使えるようになるまでに、米子市が歩んだ歴史や先人の努力を子どもたちに感じてもらえれば幸いです。※今夏の郷土の歴史教室の申込受付は終了しています。





面文帯神祇鏡
古墳時代 中西尾 6 号墳



菊花文鳥鏡
室町時代中期～後期 山陰歴史館蔵

会期 2026.9.9 [水] - 2027.2.8 [月]

米子市福市考古資料館

企画展

鏡が映した歴史

観覧無料

青銅などの金属の表面を美しく磨いて光を反射させる鏡は、昔から古墳の副葬品や神社の御神体など神聖な道具として珍重されてきました。また、鏡の背面に彫られた様々な紋様から、当時の人々の世界観をうかがうことができます。

米子市内の遺跡からは、これまでに20面以上の鏡が出土しています。また、米子市立山陰歴史館には、古代から近代の鏡が300面近く収蔵されており、全国でも屈指のコレクションを誇っています。

今回の企画展では、米子市内の遺跡から出土した古墳時代から中世の鏡とともに、山陰歴史館が所蔵している鏡の中から代表的なものを展示し、古代から近世まで続いた鏡の歴史を振り返ります。



こしきさん

越敷山131号墳出土鏡

伯耆町・越敷山 131 号墳から鏡が出土した直後の様子です。遺体の首から肩付近と推測される場所から、光を反射する表面を上にした状態で出土しました。

石棺内は、全面に赤いベンガラが塗られ、管玉やガラス玉なども副葬されていました。鏡の表面は、出土した直後は美しい玉虫色の光沢がありましたが、乾燥するとすぐに輝きを失ってしまいました。

令和 8 年度 米子市埋蔵文化財センター 考古学講演会 2

鏡が映した歴史

古代から近代の鏡の歴史についてお話しします。

日時 9 / 27 [日] 14 : 00 ~ 15 : 30
(13 : 30 開場)

会場 米子市文化ホール 2 階研修室 1・2

講師 佐伯純也 (米子市文化財団 埋蔵文化財調査室次長)

参加費 : 100 円 (資料代) 定員 : 30 名 (要申込・先着順)

申込方法 : 米子市埋蔵文化財センター (0859-26-0455)

まで電話にて申込 (9/24 締切)

主催 : (一財) 米子市文化財団 米子市埋蔵文化財センター

にいや みやの だん

新屋宮ノ段遺跡出土和鏡

和鏡とは、平安時代の後期に日本で独自に創作された鏡です。日南町の新屋宮ノ段遺跡から出土した二面の和鏡は、室町

時代前期のもので、亀甲紋に二羽の鳥が向かい合う、典型的な和鏡の構図を採用しています。



資料紹介

吹野俊英の戦争資料の紹介



取壊し前の吹野家の2棟の醸造蔵(上空より)
令和5年(2023)1月11日 撮影(有)サンユービルド

令和4年(2022)12月、「清酒 淀江正宗」の造り酒屋であった旧吹野合名会社より「醸造蔵を取壊すので保管しているものを見てほしい。」と連絡が入り、翌1月調査に出かけました。

吹野家は江戸時代後期より酒造業を営む商家で、大正3年(1914)に吹野合名会社を設立。酒類製造販売などをおこなっていました。昭和24年(1949)頃に「醤油醸造 山吹醤油」へ転業、昭和36年(1961)に廃業しました。

この時の調査で巡りあったのが「吹野俊英の戦争資料」です。

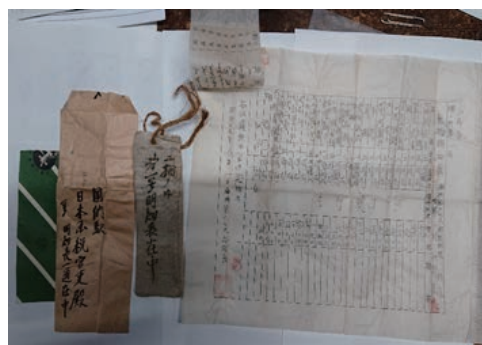
俊英は、大正3年(1914)7月米子市上福原に誕生、昭和7年(1932)3月吹野禮子と結婚。昭和15年(1940)3月に東京帝国大学を卒業後、4月に満州の本溪湖煤鐵公司(註1)に勤務。12月8日召集「資料1」。12月18日には本溪湖駅で見送りを受け「資料2」淀江へ帰郷します。昭和17年(1942)1月10日松江63連隊に入隊「資料3」。関東軍へ配属され満州の鶴崗官舎で家族と暮らしました。昭和19年(1944)8月1日南方への出征を控えた俊英に見送られ家族は帰国「資料4」。俊英は、8月13日から14日かけて鶴立駅からフィリピンへ立ち、昭和20年(1945)5月15日フィリピンルソン島ミヌリで戦死しました。(註2) (上淀白鳳の丘展示館 笹尾)



資料1 本溪湖煤鐵公司総務部文書課に置かれた日章旗(左)と祝入営旗(右)



資料3 「武運長久祈願」日章旗(左)と千人針の布帽子(右)



資料4 満州鶴崗を立つにあたって作られた持帰り用「私物明細書」(右)と同内容の荷物用木札(左)



資料2 本溪湖駅での見送り風景写真と自筆説明

註1 「本溪湖煤鐵公司」は明治44年(1911)日清合弁の石炭・製鉄企業として設立。昭和10年(1935)には満州国との共同出資特殊法人となり、同時代の日本の製鉄産業を支えた。

註2 『鳥取総合聯隊史』昭和58年(1983)4月刊行 鳥取総合聯隊史刊行委員会

※吹野家からは、同時代、神風特別攻撃機「彗星」乗組員としてアメリカ巡洋艦ルイスヴェルに体当たりして戦死した吹野匡(ただし/遺書は靖国神社)も出征。

コラム

米子の考古学史

淀江警察分署へ

明治34年(1901)8月1日に養良高等小学校での見学を終えた坪井正五郎は、その足で淀江警察分署に向かい、ここで保管されていた長者ヶ平古墳の出土遺物を見学します。

この年の春、道路工事のための土取りで長者ヶ平古墳の墳丘が削られた際に、横穴式石室の斜め上から新たな小石槨が見つかり、豪華な副葬品が出土しました。ここから出土したものは、人骨、鳥骨、金メッキの施された透かし彫りの金具、刀、玉などでしたが、作業していた人たちは、出土した人骨を自分の腕や太ももと比べて、その大きさに驚いたそうです。

ところで、小石槨から出土した遺物が、なぜ警察署に保管されていたのでしょうか。それは、明治32年(1899)に制定されたばかりの「遺失物法」に沿って処理されたためと考えられます。実は、遺跡から出土した遺物も、一般的な「拾得物」と同じように取り扱われているため、現在でも発掘調査が完了した後は、出土した品目を警察署に届け出ています。

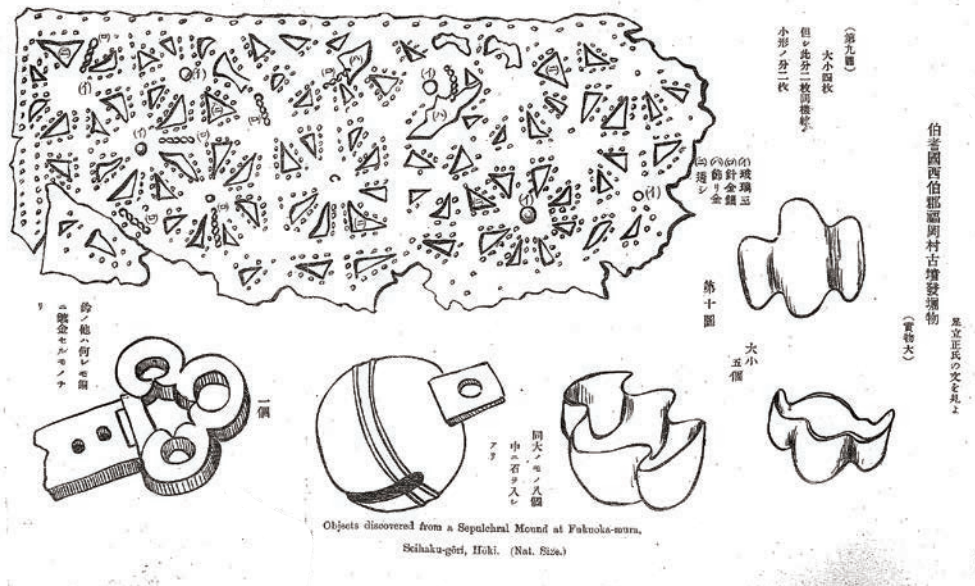
明治34年(1901)の『鳥取県警察統計書』によれば、淀江警察分署では、この年に23点の埋蔵物の届出があり、その内訳は、「陶器1、古剣1、鈴8、飾金4、剣柄頭破片1、金焼付古器5、土器2、古剣ノ破片1」でした。このうちの鈴、飾金、剣柄頭、金焼付古器(三輪玉)が、長者ヶ平古墳の出土品と思われます。

それから、この時に見つかった資料は、東京大学総合研究博物館が所蔵していますが、足立正が書いた論文の中に、「これらの諸品は今(東京帝国大学)理科大学人類学教室にあり」との編者註が書き添えられています。足立論文が掲載された『東京人類学会雑誌』が刊行されたのが同年の9月なので、おそらく、この時に坪井が警察署から直接出土品を受け取り、自ら研究室まで持ち帰ったと考えられます。明治時代では、陵墓など皇室に関係する遺物は、東京の帝室博物館に収蔵されるのが通例となっていましたから、これはかなり異例の対応と言わざるを得ません。長者ヶ平古墳の出土品が、東京大学へ移管された一連の流れについては、土屋隆史氏の詳細な考察があります(註1)。

淀江警察分署を出た後、一行は米子へ戻りますが、ここでも坪井は角盤小学校の同窓会員のために「人類研究の発達」と題する講話を行っています。

米子から淀江までおよそ10キロ、徒歩で2時間かかる道のりですが、昔の人の体力には驚かされます。

(米子市埋蔵文化財センター 佐伯)



足立論文に掲載された長者ヶ平古墳の出土品

註1 土屋隆史「金工品からみた長者ヶ平古墳」『東大人文・淀江プロジェクト 第2回公開シンポジウム予稿集 長者ヶ平古墳からみた淀江・倭・朝鮮半島』令和6年(2024)1月

上淀廃寺跡

国指定史跡

国史跡上淀廃寺跡は平成8年(1996)に国史跡に指定されました。平成3年(1991)から行われた発掘調査によって三塔一金堂の独特な伽藍配置^{がらんはいち}が分かったほか、塑像片^{そぞうへん}や国内最古級の彩色仏教壁画片が出土し、当時の現地説明会には約5000人もの人々が訪れました。

現在の遺跡には、金堂基壇^{こんどうきだん}である瓦積み基壇^{かわらづ}が、塔跡は発掘当時の様子が復元されています

また、上淀白鳳の丘展示館には上淀廃寺跡から出土した仏像片や壁画片をもとにした、原寸大復元の金堂内部が展示されています。

復元された仏像は、本尊は丈六仏(座像で約2.4m)、脇侍の菩薩は一丈(立像で約3m)の大きさです。奥と左右の壁には彩色仏教壁画が復元されており、当時の古代寺院を体感できる施設です。そのほかにも、上淀廃寺跡から出土した壁画片、仏像片の実物も展示されています。



国史跡上淀廃寺跡

編集後記

今号は、淀江特集となりました。壁画発見から35年が経過して、きれいに整備された上淀廃寺跡も、案内看板や土系舗装の劣化が目立つようになってきました。一方で、史跡の活用と地域おこしを目指した彼岸花の植栽は、地域の恒例行事として定着しました。昨年は、期間中に1123人の来訪者があり、普段は静かな福岡地区も、たくさんの人でにぎわいました。

それにしても、近年の高温気象は彼岸花の開花時期にも大きな影響を与えています。一昨年は、彼岸花ウィークの開始直前にも関わらず、開花ゼロという状態だったため、関係者一同頭を抱えました。今年は、期間中に満開を迎えられるよう祈るばかりです。

NO.2 米子歴史通信

米子市歴史系博物館広報誌

2026 夏号

令和8年(2026)8月20日発行

編集・発行 一般財団法人 米子市文化財団

[米子市立山陰歴史館・上淀白鳳の丘展示館・米子市埋蔵文化財センター・米子市福市考古資料館]

米子市立山陰歴史館

〒683-0822 鳥取県米子市中町20

TEL0859-22-7161

休館日：毎週火曜日(祝日の場合翌平日)、
年末年始

開館時間：9:30~18:00(入館は17:30まで)



上淀白鳳の丘展示館

〒689-3411 鳥取県米子市淀江町福岡977-2

TEL0859-56-2271

休館日：毎週火曜日(祝日の場合翌平日)、
年末年始

開館時間：9:30~18:00(入館は17:30まで)



米子市福市考古資料館

〒683-0011 鳥取県米子市福市461

TEL0859-26-3784

休館日：毎週火曜日(祝日の場合翌平日)
祝日の翌日(土、日、祝の場合を除く)
年末年始

開館時間：9:30~17:00(入館は16:30まで)



米子市埋蔵文化財センター

〒683-0011 鳥取県米子市福市281

TEL0859-26-0455

休館日：土・日・祝日、年末年始

開館時間：9:00~17:00(入館は16:30まで)

